

ホッピーだより

平成19年 3月 1日 (2007/ 3/ 1)

No. 268



むかわ町立穂別博物館

054-0211

北海道勇払郡むかわ町穂別80-6

0145-45-3141 (Tel & Fax)

クビナガリュウのホッピー

ホッピーのひみつ8

「ホッピーのおなかから、石？」

クビナガリュウ「ホッピー」は、小さなかけらも入ると400個以上の骨が見つかりましたが、おなかのあたりからは、丸い石もいくつか見つかりました。

さて、この石はなんでしょう？ (答えは一つではないかも)

1. まちがって食べた
2. 病気で石ができた
3. エサをすりつぶすため
4. 化石になるとき、ころがってきてまざった
5. 浮いたり沈んだりバランスをとるため

ホッピーのおなかから見つかった石



ホッピーのおなかから見つかった石は10個ほどで、かたくて、丸い形をしています。他の化石では、ちょうど胃の部分から、何百～何千個と見つかった例もあるそうです。

こんなにたくさんの石をまちがって食べることは考えにくいですね。また、石の種類はチャート (海の底でかたいカラを持つプランクトンがかたまってきた岩石) などで、病気で体の中にできる石ではありません。(よって、1と2は違います)

また、こうした丸くて大きな石は、陸の近くで見られます。ホッピーの化石のまわりの石は泥がかたまったもので、陸からかなり離れていたことがわかります。(4も×)

最近では、石を飲むことで体の重さを調整して、水中で浮いたり沈んだりするバランスをとるために役立っていたと考えられています。現在のワニも同じように石の重さを利用しているようです。(5が正解)

また、石におたがいにぶつかった傷あとが見られたり、いっしょに胃に入っていた魚の骨がこなごなにくだかれていた例もあり、食べ物をすりつぶすためにも使われていたのではないかと考える研究者もいます。これは鳥や、竜脚類 (四つ足で歩く、首と尾の長い草食の恐竜類) にも見られるそうです。(よって、もしかしたら3も正解)

この石は、学問的には「胃石」(いせき)と呼ばれています。ホッピーを含めたクビナガリュウは、陸からはなれた海を泳いでいたようです。このような石を手に入れるために、わざわざ陸へ近づいてきたと考えられています。

これまで見つかった胃石で一番大きなものは、ソフトボールくらい (17cm・1.4kg) もあったそうで、アメリカで見つかったこのクビナガリュウは全部で13kgもの石を飲んでいました。とは言っても、体の大きさは14m、体重は6.6トンもあったようなので、たいしたことはなかったのでしょうね。

化石といっしょに見つかる色々な証拠を調べることで、昔の生き物たちの生活のしかたがわかってきます。

ホッピーのひみつ、少しはわかってもらえたでしょうか。

ぜひ、博物館へ来て、全身の姿を改めて見てください。

(学芸員 さくらい)



図書コーナーができました！

絵本や漫画もあるよ



本来博物館は、実物を見たり、実物に触れてもらうところなのですが、その展示室で見た化石のイメージをふくらませたり、化石についての知識を広げたり深めたりしてもらうために、常設展示室の中に、「図書コーナー」をつくりました。

パンフレットをふくめても280余冊の小さなコーナーですが、恐竜を中心とした化石に関する本を、幼児向けの絵本や子ども向けの漫画から大人向けの一般書まで用意してあります。また、

主として英語ですが（中国語も3冊）、絵本を中心に外国語の本もあります。

町内の方には、貸出もしておりますので、博物館においでの際には、コーナーでちょっと本に手を伸ばしてみてください。

冬の厳しさを体験して春に芽を出す種子

前号まで、3回に渡って「植物が生育範囲を広げるために、いろいろな形で種子を散布している」ことについて書いてきました。では、秋に地面に落ちた種子は、今雪の下でどうしているのでしょうか？

中学校の理科の時間に、「種子が芽を出すときに必要な条件」を学んだと思います。「種子が発芽するには『水』『空気』『適当な温度』が必要である」ということですが、その学習をしているときある生徒から「秋に地面に落ちた種子は、発芽の条件がそろっているのになぜ芽を出さないのか」という質問がありました。つまり、「春まで待たなくても条件さえそろえば、秋に芽を出したっていいではないか」ということなのです。別の生徒が「それだとすぐに冬になって枯れてしまうから、芽を出さないのではないか」と答えました。「植物がそんなことを考えるのか？」という意見も出され、しばし教室が沸きました。

実は、散ったばかりの種子には、まだ胚が不完全だったり、種皮が水分や空気を通しにくい休眠期があり、ある期間を過ぎないと芽生えないものが多いのです。また、春に発芽する種子には、「冬の寒さを体験した後に温度が上がると発芽する」ものが多いようです。

このことは、秋に散った種子をひろって何日か冷蔵庫に入れて冷やし「冬を体験させた」後に、暖かいところに出してやると発芽するという実験で確かめられているようです。

今年は暖冬で、時季はずれの花咲いたという知らせが届いてますが、ある期間寒さを体験した植物が春のような気温になると、花を咲かせてしまうのでしょうか。そのあとまた寒さがやって来ると、花にとっては大変でしょうが、どうやらそこまでは考えていないようです。

むかわの化石や生き物



穂別地区にて

ニホンカナヘビ

日本全国で見られる、小さなトカゲの仲間です。茶色で細長い体と長い尾が特徴です。爬虫類は寒さに弱いので冬は冬眠しています。巨大なモササウルスは、実はヘビやトカゲの仲間なのですが、この姿から思い浮かべるのは難しいかも知れませんね。

2007年3月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

3月のこよみ

3月の休み：
5、12、19、26（月曜日）
22（祝日の振替）

■：休館日
[]：館内整理日
○：町民無料入館日

化石は、昔にこのような生き物がいたということ、どのような姿をしていたということだけではなく、どのように生活していたのかも教えてくれます。今は化石になったホッピーも、8,000万年前には海を泳いでエサを食べていたのです。（さ）